

6月27日（島原半島PTA母親委員会挨拶）

共に育つ

皆様こんにちは。本年度、母親委員会の事務局校となります口加高校の狩野でございます。本日は、お足元の悪い中、島原半島各地からようこそ半島の南端にある本校へお越しくださいました。母親委員会の皆様方には、受験を控えた3年生に激励のしおりを作られたり、文化祭でのバザーや学習合宿での食事作り、行事での炊き出し、寮の清掃や球技大会に参加されたお母様方もいらっしゃいます。それぞれの学校で行事や教育活動を支えてくださっていることに対しまして、全ての校長になり代わり御礼申し上げます。また、ご担当の先生方にもご出席いただいております。ありがとうございます。

さて、毎年、福井県のある財団が主催する「日本一短い手紙一筆献上賞」というのがあります。毎年テーマを決めて全国から40字以内の手紙を募集するものです。昨年度のテーマは「母」でした。その中の入選作品に10歳の男の子が書いたこんな手紙がありました。

「ぼくが生まれて十年だから、お母さんも十才ですね。まだまだいっしょにがんばろうね。」

お母さんの実年齢は40歳ぐらいかもしれませんが、母親年齢はまだ10歳だよということ子どもが親に教えてくれている手紙です。このお母様は母親として悩んだり、迷ったりされていることがあったかもしれませんが、これを読んで、新米ママなんだから悩むことは当然で、子どもと一緒に自分も成長していけばいいんだと、肩からふっと力が抜けられたのではないのでしょうか。

これを読んだとき、ふと作家の重松清さんが15年ぐらい前に書かれた「育てる」というエッセイを思い出しました。

「育てる」

重松 清

中学生の一人息子を持つ父親・Sさんの話である。何かにつけて扱いづらい年ごろの中学生、Sさんの息子もご多分に漏れず親や教師に反抗しどおして、Sさん、ほとんど手を焼いて、自分の子育てにすっかり自信をなくしていたのだという。

ある夜、Sさんは息子をこっぴどく叱った。どうして親の気持ちを分かってくれないのか、どうして素直になってくれないのか……。情けなさともどかしさのあまり、Sさん、ついに息子に手をあげてしまった。

すると、息子は猛然と抗議に出た。父親の体罰をなじり、ふだんの口うるささに自分がいかに苦しめられているかを訴えて、こんなふうにした。「文句ばかり言うなよ！俺、生まれて初めて中学生やってんだぞ！」

Sさん、唾然とした。呆然とした。屁理屈にもほどがあるではないか……。

だが、次の瞬間、売り言葉に買い言葉で、Sさんは思わず怒鳴り返していた。

「うるさい！お父さんだって、中学生のおまえを育てるのは生まれて初め

てなんだ！」

息子もきよとんとした顔になった。お互いに言葉が途切れた。ぼかん、と抜けたような沈黙がしばらく流れた。そして、二人はどちらからともなく笑い出した、という。

親も子どもも、ともに「生まれて初めて」の日々を生きている。いや、人生そのものが「生まれて初めて」の連続ではないか……。

「そう考えると、急に肩の力が抜けて楽になったんだ」とSさんは僕に言った。最近のSさんは、息子を叱るときにも「なんでこんな簡単なことがわからないんだ！」と嘆くのではなく、「お父さんもおまえも『生まれて初めて』なんだから、ここできっちりぶつかり合っておかないとヤバいんだぞ」という気持ちで向き合うようになったのだという。

「育てる」ということを思い描くとき、僕たちはつい、自分をゴールの側に置いてしまう。一步ずつこっちに向かってくる子どもをゴールで待ち構えて、正しい道を進むように導くことが、「育てる」ことなのだ、と。

でも、ほんとうはそうじゃないのかもしれない。おとなも子どもも、「育つ」側も「育てる」側も、みんな「生まれて初めて」の日々を生きている。おとなは自分自身の「育つ」を終えてから子どもを「育てる」ことをはじめるのではない。おとなだって、育てながら育てている。人生の長い道のりの途上にいることは、おとなも子どもも同じなのだ。

ならば、試行錯誤もあるだろう。失敗して悔やむことだってあるはずだ。かまわないじゃないか、そんなのあたりまえですよ。あえて、そうっておきたい。子育ての「正解」を見つけられない自分を責めて、悩み苦しんでいる親がたくさんいる時代だからこそ。

人生を何度でもやり直すことができるなら、「正解」の数は増えるだろう。でも、それができないから、すべては「生まれて初めて」であり「最初で最後」だから、生きることはちょっと哀しくて、すごく愛おしい。

僕は今年「生まれて初めて」四十二歳になる。二人の娘たちも、それぞれ「生まれて初めて」の中学三年生と小学三年生になる。いまはまだまさらな2005年のカレンダーに、わが家の「生まれて初めて」の日々は、どんなふうに刻まれていくだろう。ぶつかったり、すれ違ったり、悔やんだり……家族で笑い合える日が一日でも多ければ、いいな。

昨日、やっと北部九州も梅雨入りしました。洗濯物も乾かないし、じめじめしてうっとうしい季節だなという方もいらっしゃるでしょうし、農家さんなど、この雨を待っていらっしゃる方も大勢いらっしゃると思います。「今日はよか天気ですね」というと、一般に晴れの日を言いますが、仕事柄、雨の日こそよか天気という方もいらっしゃいます。確かに天気予報では晴れをいい天気とは言いません。いいか、悪いかはその人次第。何事も立場、立場で物事の捉え方は違うものです。しかし、お母様方と私たち教員は、親そして先生という立場は違いますが、同じ方向を向いて、子どもたちの健やかな成長のために頑張りたいと思います。

本日はお疲れ様でございます。どうぞよろしくお願いいたします。